

筑波大学 人文・文化学群

日本語・日本文化学類

College of Japanese Language and Culture
University of Tsukuba

〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

TEL 029-853-6764

FAX 029-853-6839



筑波大学 人文・文化学群 日本語・日本文化学類

つくば にちにち SEARCH

 <http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/>

 <http://www.facebook.com/tsukuba.nichinichi>

 @Nichinichi



伝えたい日本がある。

Our Message to the World



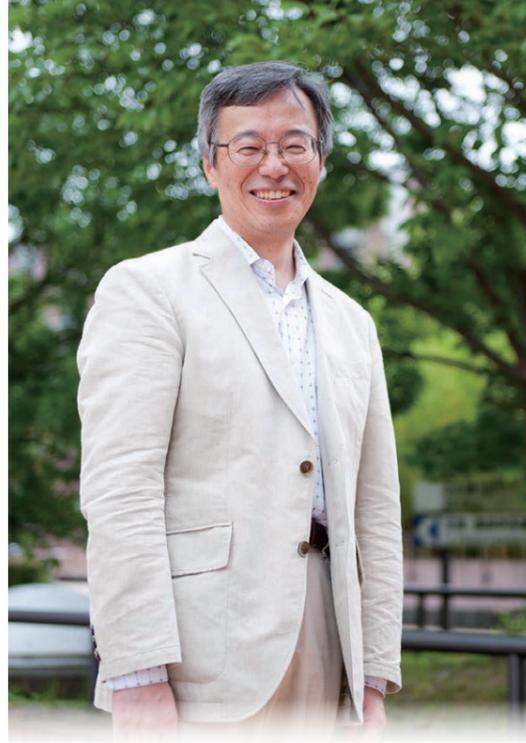
このロゴマークは、2004年に制定されました。学類関係者の公募により選ばれたものです。日本語・日本文化学類の通称「日日(にちにち)」から「日日草(にちにちそう)」を連想し、家紋風に

デザインしたものです。

日日草は、暑さに強く初夏から秋まで咲き続けます。また仲間の蔓日日草(つるにちにちそう)は冬の間も根が枯れず、大変繁殖力の強い植物です。花言葉は「生涯の友情」「優しい追憶」「楽しい思い出」です。

Contents

学類長あいさつ	2
日日生からのメッセージ	3-4
教員からのメッセージ	5-6
カリキュラム紹介	7-8
日日生の授業紹介レポート	9-10
国内実習・海外実習・日本語教育実習	11-12
チューター制度	13
留学生	14
海外留学	15
卒業論文	16
卒業後の進路	17-18
まだまだ知りたい学類 Q&A	19-20
入試案内・アクセス	21



筑波大学 人文・文化学群
日本語・日本文化学類

谷口孝介

学類長あいさつ

ようこそ、日本語・日本文化学類へ!

日本の教育界が小・中学校段階からコンテンツ・ベースの教育からコンピテンス・ベースへと大きくパラダイム転換しています。そのようななかで筑波大学においても学生本位の視点から大きく教育課程を見直しているところです。おりしも多文化共生が進む現代日本社会のなかで、学術・教育・生活・文化に関わる諸課題を解決し、生存してゆくためには、目の前の現象から出発しつつも、現象のみにとらわれず、課題の本質を透徹しうる総合知が要求されています。わたしたちは日本語教育を基軸としてその問題を広く日本文化の課題として位置づけ探究することを通して、現代社会の諸課題の解決に立ち向かう能力を養成することを目的とします。

そのために、複数の分野の教員による授業科目を多く設けることで、ひとつの事象、課題を多角的・立体的に考察する視点を提供します。とくに国際・協働の科目において、現実に生起する課題に対処する多様な具体的な方策を実践的に学ぶことができるよう工夫をしています。

たとえば日本に関係の深い海外の、それほど遠くない過去に目をやることで、わたしたちが無意識に持っている固定観念が揺らいでいきます。いきなり地球規模的な視野を持つことは不可能ですが、まずは身近な異文化をどっぷりと体験してみることで、自己を構成するモザイクの変動が起こってきます。現今さまざまな局面においてこの社会は異文化を取りこむ必要に迫られています。そのなかで確実に存在していると思っていた「自己」も変容して行かざるをえません。そのような認識を持たず右往左往して流されたり、現実に目を背けたりするだけでは、ますますこの社会は住みにくいものになってしまいます。わたしたちはよりよく生きて行くために、多文化と共生する術を身につける必要があるのではないのでしょうか。



日日生からのメッセージ



筑波、特に日日では英語以外の言葉話す人と交流することがしばしばあります。私は英語のほかにロシア語を勉強していますが、第二外国語の授業だけでなく留学生との会話などを通じて新たな言葉を学ぶことで、より開けた価値観を得ることができます。言葉は文化探訪の足がかりになります。(串崎)
▶ Q&A 学習編 (p.19)

「日本語や日本文化は他でも学べる」と思う人もいるかもしれませんが、国内実習や専門的な日本語教育の授業など日日でしか実現できないことが沢山あります。日日にしかない魅力を是非感じてください!(古澤)
▶ カリキュラム紹介 (pp.7-8)



一様に文化と言っても、食から芸能まで幅広く存在します。古代から現代まで続く歴史の中で日本文化を学び、異文化理解への足がかりにしましょう。(菊池)
▶ 日日生の授業紹介レポート (pp.9-10)



この質問に「いいえ」と答える人は少ないでしょう。しかし、知っているつもりで実は知らない日本語の本質が、日々の学びを経て見えてきます。毎日の生活と密接な関係を持っている日本語。その本当の姿に触れてみませんか?(太田)
▶ 日日生の授業紹介レポート (pp.9-10)



留学生は私たちが「当たり前」だと思っている日本の様々なことについて、疑問を持ちます。当たり前が当たり前ではない、と気づいた時、今まで知らなかった日本の一面が見えてきます。(二橋)
▶ チューター制度 (p.13)

大学生は勉強だけじゃない! 私は管弦楽団、教育ボランティア、アルティメットの3つのサークルに所属しています。勉強もサークルも全力!(相曾)
▶ Q&A 生活編 (p.20)

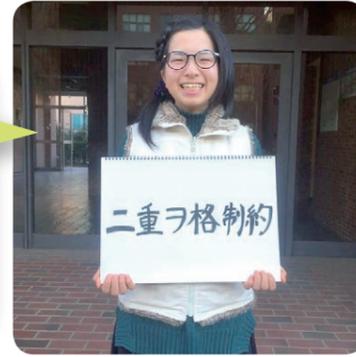


私は高校生の時にニュージーランドでホストマザーにこう聞かれて、何も答えられませんでした。日本とはどんな国か、たくさんのことを学び、自分なりの「答え」を見つけましょう!(小嶋)
▶ 海外留学 (p.15)



「グローバル人材」とはどんな人のことでしょうか? 私は、ローカルな現場で仕事をしていても、グローバルな視点でものを考えている人は「グローバル人材」だと思います。日日で立派な「グローバル人材」になりましょう!(小島)
▶ 卒業後の進路 (pp.17-18)

「○ 先生が太郎に英語を教える」
「× 先生が太郎を英語を教える」
この違いを説明するのが、「日本語の一文では目的語の「~を」が2つ以上存在できない」という制約です。身近なようで知らない日本語の奥深さを考えてみませんか?(小林)
▶ 卒業論文 (p.16)



日本語・日本文化について「世界へ向けて発信!」するために、パスポートは必須。日日は外国を身近に感じられる場所です。(信)
▶ 海外実習 (pp.11-12)



「国語の先生になりたい。でも外国人に日本語も教えたい。」そんな私の希望を実現できるのが日日でした。いま初等・中等教育では、外国人児童生徒への日本語支援の問題を抱える学校が多いのだそうです。(田中)
▶ 卒業後の進路 (pp.17-18)

自分で一から研究をする機会は、大学でも案外少ないです。フィールド実習は、現地の人々や風景から自分で一次資料、つまり生のデータを収集して、生の研究ができる魅力的な授業です。(渡辺)
▶ 国内実習 (pp.11-12)



少人数ゆえの仲の良さは日日が一番! 先生もフレンドリーで、本当にアットホームな学類です。授業の雰囲気も先生や友人と議論しやすく、楽しく集中して授業が受けられます。(久保田)
▶ 教員からのメッセージ (pp.5-6)

日本語学習者に教師が用いる話し方が「ティーチャートーク」です。日本語を初めて学ぶ人たちに、あなたの日本語は伝わりますか? 教える体験を通じて、日本語教育の面白さ、難しさを体感できます。(杉村)
▶ 日本語教育実習 (pp.11-12)



日日では言語も文化も両方学ぶことができます。言語か文化どっちか一方だけなんて選べないと思っていた私にとって日日はびったりの学類でした! 今受けている授業はどれも魅力的で、毎日の授業が楽しいです!(那須)
▶ カリキュラム紹介 (pp.7-8)

受験生の皆さんへ



石田 尊 ● ISHIDA TAKERU
日本語学・eラーニング
Japanese linguistics / e-learning

日本語における他動性（他動詞らしさ、他動詞文らしさ）や、受動文などのヴォイス現象に特に興味を持ちつつ、日本語の文法を研究しています。授業では日本語の歴史も扱っています。日本語はどのような言語か、どうして今のような姿になったのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



金 仁和 ● KIM INHWA
韓国語学・対照言語学
Korean linguistics / Contrastive linguistics

語彙分類の方法は、文法、意味、語用的用法等、目的により様々です。意味派生からの分類も興味深いです。例えば、擬声語・擬態語等で二つ以上の感覚の意味を持つ語彙の分布を韓日で比較すると、両言語の相違点が文化の影響面から理解でき、文化と関わる言語の特性がよく分かります。



鈴木 伸隆 ● SUZUKI NOBUTAKA
文化人類学
Cultural anthropology

文化人類学は、人びとの生活そのものを調査研究の対象としています。非常に間口が広いことが特徴です。人間を対象を捉える眼差しは、いろいろな欲望や偏見に満ちています。人やモノが世界規模で移動する時代だからこそ、自分を相対化する人類学的な視点は重要です。



杉本 武 ● SUGIMOTO TAKESHI
日本語学・コーパス言語学
Japanese linguistics / Corpus linguistics

日本語の動詞に関わる文法現象を中心に研究しています。コーパスと呼ばれるコンピュータ上の大量のテキストデータを用い、実際の用例を見ながら、動詞の意味が文の組み立てとどう関わるか、例えば、なぜ「嫉む」は「才能を嫉む」で、「嫉妬する」は「才能に嫉妬する」となるのか、等を考えています。



竹沢 幸一 ● TAKEZAWA KOICHI
言語学
Linguistics

「言語は人間精神の鏡である」と言われます。母語（日本語）の考察と言語間の対照を通して、人間の創造的思考の源となる言語を産み出す心のメカニズムを探ることが私の研究目的です。日本語の分析が日本語一言語に留まらず、人間言語一般の研究につながる面白さがそこにはあります。



朴 宣美 ● PARK SUNMI
近現代日朝文化交流史・ジェンダー史
History of cultural exchange in modern Japan and Korea / Gender history

私は、社会文化史・ジェンダー史の視点から近代日本や朝鮮を考察しています。19世紀末から20世紀前半において、朝鮮から日本へ、日本から朝鮮へ渡った様々な人々（特に女性たち）の移動を明らかにし、それによって生まれる新しい考えや「知」について研究しています。



入山 美保 ● IRYAMA MIHO
日本語教育学
Japanese language education

Japan-Expert (学士) プログラムの日本語教育コーディネーターをしています。非母語話者プログラム生が日本の文化・社会を理解し、母国の日本語教育を牽引する専門的な日本語力、知識を持った人材になるための教育支援を行っていきたくと思っています。



清登 典子 ● KIYOTO NORIKO
日本文学
Japanese literature

専門は日本文学で古典詩歌（和歌・俳諧）を中心に研究しています。大学で学ぶことは、これまでの常識を疑い、自分で調べ考えて自分の言葉で表現する力を身につける事です。授業はそのための知的訓練の場です。積極的に授業課題と取り組み自分を伸ばして行ってください。



谷口 孝介 ● TANIGUCHI KOSUKE
中・日比較文学
Comparative literature between China and Japan

大学で学ぶ意義の第一は、「教養（リベラル・アーツ）を身につける」ことにあります。真の教養とは、人生におけるさまざまな判断の機会に断固として決断できるバランス感覚だと思います。古代の文学を研究していると、学問が細分化される以前の、理想的な教養人が存在することにしばしば驚かされます。



一二三 朋子 ● HIFUMI TOMOKO
日本語教育学
Japanese language education

「世界へ向けて発信」したいものがありますか？ あるとしたら、なぜ発信したいのですか？ 日本語教師には特に、それを明確にしてほしいと思います。日日で学ぶ4年間、常に問題意識をもち、答えを自分なりに見つけて、心の底から「世界へ向けて～を発信したい！」という意志と意欲を持って卒業してほしいと思います。



小野 正樹 ● ONO MASAKI
日本語教育学・日本語学
Japanese language education / Japanese linguistics

日本語を中心として、言語表現と言語行動の関係を見ています。どうやって言語化するのかという認知的な営み、聴き手へのポライトネスの表し方について考えています。今はカザフスタンやウズベキスタンなどの中央アジア地域との交流にも積極的に取り組んでいます。



澤田 浩子 ● SAWADA HIROKO
言語学・音声コミュニケーション研究
Linguistics / Speech communication studies

生活の中でことばを見つめ、分析する力を身につけてほしいと思っています。授業では夏休みにフィールドワークに出かけ、その地域の言語生活を調査します。初めは戸惑っていた学生も、みな数日のうちにメキメキと観察眼を伸ばしていきます。人間が社会で生きるとはということか、ことばの側面から切り込みます。



沼田 善子 ● NUMATA YOSHIKO
日本語学
Japanese linguistics

現代日本語の文法を研究しています。学校文法で「副助詞」とされる語群の意味と文法的な働き、「やる、くれる、もらう」等の授受動詞や「視点」の問題に興味を持ち、古典的な方言、あるいは、他言語の研究の専門家と連携して、研究を進めています。



松崎 寛 ● MATSUZAKI HIROSHI
日本語教育学・音声学
Japanese language education / Phonetics

[sem:ou̯ waoʒse:yakxtopifio̯:oco:ikx]
(専門は音声学と日本語教育)
[dzic:ur:ocʰumiseʒse:tatçotjat:emas]
(実習を一二三先生達とやっています)
[tskuʋʌpizukep:icçtene]
(筑波に受験に来てね)
[ʔjorockw] (よろしく!)

教育の目標と特色

本学類では、日本語を含む日本文化を総合的に捉えるとともに、世界の言語・文化の中で相対的に捉える力を養い、これによって、異言語・異文化を背景とする人たち、あるいは次世代の人たちに日本語と日本文化を適切に発信し、伝えていくための専門知識と能力を身につけた文化の創造者たる人材を育成することを目標としています。

開設科目は、その内容により「日本語関連科目」と「文化関連科目」に分けられます。

【総合性と専門性のバランス】

日本語と文化という二つの柱をもとに、すべての学生が日本語・日本語教育・日本文化に関する知識を幅広く学ぶようカリキュラムを編成しています。学生はそうした知識を総合的に学んだ上で、3年次後半からそれぞれがテーマを決めて専門的な調査・研究を行い、卒業論文または卒業研究に取り組みます。

【実践性を重視したカリキュラム】

知識教育だけでなく、実践を重視したカリキュラムを用意しています。日本語や日本文化をテーマとしたフィールドワークなどを行う国内実習、海外の大学や企業でインターンシップが体験できる日本語教育実習など、日ごろの授業で得た知識を、実習を通してより深め、実践力に変えていくことができます。

【国際性を育てる教育】

国際科目を開講し、学生が海外で学ぶ機会を提供しています。また、様々な地域からの留学生と共同で調査・研究を行う協働科目の開設や、留学生をサポートするためのチューター制度を通して、日常の学習の場で国際交流が実体験できるようになっています。

日本語関連科目

皆さんが英語の勉強をはじめた時のことを思い出して下さい。「thの発音は歯と歯の間に舌をはさんで」「Iの時はamで、youの時はare」などといったことを、ひとつひとつ覚えましたね。生まれながらに英語を話す人は、こんなことをいちいち考えながら話しているわけではありません。

日本語を話している私達は、「あれは筑波山です」と「あれが筑波山です」とを無意識の内に使い分けています。けれども、この「は」と「が」とは、いったいどこがどう違うのかと聞かれると、ちょっと困ります。すぐにうまく答えられる人などそうはいません。

日本語を外国人に教える時には、自分には分かりきっていることであっても、それをひとつひとつ丁寧に教えていかなければなりません。そして、そのためには、日常何気なく使っている日本語をよく観察し、客観的に分析する習慣をつけなければなりません。

主な授業内容は、現代日本語の音声・音韻、語彙、文法、意味、談話、言語行動などを扱う講義および演習、日本語史、日本語教育、理論言語学、対照言語学、論理学、コーパス言語学などを扱う講義および演習、そして国内フィールドワークや、日本語教育実習などです。世界の諸言語の一つとして日本語をとらえ、言語学的に研究するための専門的知識や的確な分析力、そしてそれを外国語として外国人に教えるための方法を身につけることを目標としています。



文化関連科目



日本語教師や国際的業務に携わる人は日本文化の伝達者であることを求められます。同時にそのような人は、日本にとっては異文化交流の窓口であり、これまで日本列島に住んでいる人々が築いてきた文化を基礎に、異文化との接触を通して新しい文化をつくっていくうえで、大きな役割を期待されています。すなわち日本文化の創造者でもなければなりません。

文化とは、私達が生活のなかで表現するものすべてを含みます。思想、芸術、文学はもちろん、政治、経済、教育などすべての社会現象や日々の生活のありかたそのものが文化です。また、日本文化は孤立して独自に形成されてきたものではありません。これまでの異文化交流がどのように行われてきたのか学ぶことも必要です。

日本の衣食住、宗教など生活に関わることや、風土、方言など、普段気に留めないような事象を見ることで、自分たちの生活を改めて考えたり、日本にとどまらず、世界の文化と日本文化を対照させて考えることで、客観的に自文化を観察することができます。興味深い授業が多数あるので、各自の関心や問題意識に合わせて履修していくことになります。



言語学概論【竹沢 幸一先生】

皆さんは話し言葉をどこかで学んだ記憶はありますか。いつの間にか使えるようになっていたという人がほとんどだと思います。では私たちはどうやって言語を身につけたのでしょうか。また、実際に言語はどのように発せられるのか、言語を使うのは人間だけなのかなど、人間の精神を映す言語という能力を様々な視点から学ぶことができます。

(笹沼 舞)



日本の文学概論【清登 典子先生】

主に日本の古典詩歌(和歌・連歌・俳諧)を学びます。詩歌と聞くと、あまり触れたことのない人も多いと思いますが、古来より日本の文学の中心には詩歌がありました。この講義では時間・空間・人間関係などの面から詩歌を読み解き、背景や思いまでを理解していきます。また、体験的に知るために作品を共同制作する時間もあります。

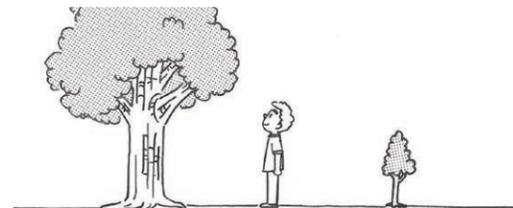
(菊池 海成)



日本語教育概論【一二三 朋子先生】

皆さんは留学生に「大きな木」と「大きい木」の違いを聞かれて、答えることができますか？ 世界には日本語を「外国語」として学んでいる人が沢山います。この授業では、日本語の特徴や仕組みを再認識すると同時に、実際の日本語教育の現場を参考にしながら、教育文法を学んだり教案を作成したりすることによって日本語教育への理解を深めます。

(那須 珠実)



日本文化入門【鈴木 伸隆先生】

日本の伝統や文化について、文化人類学的な視点から学んでいきます。この授業の最大の特徴は、授業がすべて英語で行われることです。聞き取りやすく分かりやすい英語で授業が進むため、心配はいりません。受講生はほとんど留学生で、グローバルな雰囲気です。筑波に居ながらにして留学気分を味わうことができます。

(鈴木 千絢)



日本語の文法と意味 I【沼田 善子先生】

私たちが普段何気なく使っている日本語は非常に曖昧であり、相手に正しく伝わらないことがしばしばあります。例えば、「義雄がくるまでまっとうと言った。」という文は「くるまでまっとう」の部分が平仮名で書かれているため、色々な解釈ができます。この講義では、日本語の文法や構造を学び、日本語の表現の多様性を理解していきます。

(酒井 隆一)



日本語教育学特別演習 I~IV【入山 美保先生】

日本語教員に必要な知識を検定する試験に「日本語教育能力検定試験」があります。この授業では、過去の問題を解き、学生同士で解説し合って合格する力をつけます。一人ではつまづいてしまうところをこの授業でクリアにすることができます。試験を受けるつもりがない人も、日本語教育への理解や知識を高めることに役立ちます。

(池田 由希菜)



言語と行動【小野 正樹先生】

窓を開けてほしいとき「窓を開けて」より「もしよかったら窓を開けてもらえませんか」と言う方が丁寧に聞こえます。私たちがこのような表現を使うのは、相手への配慮が言葉に現れるからです。この授業では、言葉とその言葉が使用された状況や文脈との関係を探る「語用論」の中でも、優しく依頼や謝罪を行うための「配慮表現」について扱います。

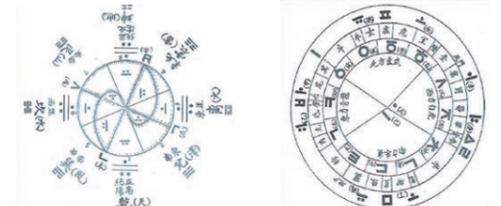
(徳永 翼)



言語と文化【金 仁和先生】

言語の持つ意味や構造から文化を探っていきます。日本語のみならず、他の言語との比較対照から見えてくる思考や価値観の違いを感じることで、自分の中に新たな視点を作り出すことができます。その単語がなぜあるのか、意味の違いはなぜ生まれたのか、等を知ることによって、深い言語理解・文化理解へとつながっていきます。

(永柳 裕次)



日本語の語彙【澤田 浩子先生】

大学に入学すると、様々な地域の方を話す友達と出会います。この授業では、その方言を「その言い面白い!」と思うだけでなく、「なぜその表現になるのか?」ということまで学ぶことができます。この他にも、性別・職業による言葉の違いや、和語・外来語の仕組みなど、現代日本語に関する様々なテーマについて楽しく扱います。

(久保田 雛子)

267 ありがとう-短い形-

○ <arigatoo> arigato;	egatta, egatta-	● <domo>	● <sumananda-naa>
○ <arigatoo-ee>	▲ <egatta-na,naa>	● <domo-ha, haa>	● <sumananda>
○ <arigatoo>	▲ <arigatta>	● <dosomo>	● <sumananda-nec>
○ <arigatoo> arigato;	▲ <hagarassa>	● <joozoo>	● <moosiwakenz->
○ <arigatoo> arigato;	▲ <obokoré-roo>	● <joozoo-avita>	● <nessi>
○ <arigatoo>	▲ <obukaku>	● <joozoo>	● <moosjakene>
○ <arigatoo>	▲ <obukatariperu>	● <joozoo-gatta>	● <moosjakene-nae>
○ <arigatoo>	▲ <tootuganasi>	● <joozoo-naa>	● <moosjakenz-noo>
○ <arigatoo>	▲ <toosige-nii>	● <sumimase>	● <moosiwakjaanee>
○ <arigatoo-ee, joo>	▲ <wari-naa>	● <sumimase-n, ne>	● <moosiwakorimase-n->
○ <arigatoo>	▲ <wari-naa>		

近代日本の国際関係【朴 宣美先生】

皆さんは近代日本の歴史をどのように捉えていますか。この授業では、インタビューや映画等の映像資料や文献を用いて、あらゆる立場の人々の視点から近代日本、特に第二次世界大戦中の日本歴史を考察します。高校までの授業や経験では知り得なかった日本の姿を見ることができるので、戦争の歴史に興味がある人にぜひ受講してほしい授業です。

(岩間 健太)



日本文化資料講読【谷口 孝介先生】

菅原道真という、どんなイメージがありますか? 学問の神様、遣唐使廃止、左遷されて祟った人……この授業ではそんな道真がその絶頂期にそれまでの自分の作品をまとめた『菅家文草』をじっくり講読します。漢文のテキストを読み、古代文人官僚としての彼の実態を捉えると共に、後に書かれた伝記『菅家伝』等も併せ、文化資料の見方を学びます。

(小島 久樹)



コミュニケーションの方法と実践V【石田 尊先生】

今日、情報通信技術の進展に伴い、インターネット等を利用した学習形態が身近なものとなりました。この授業では、eラーニングシステムを用いたテストや動画教材を試作し、成果を検討することで、自らが情報の発信側となり、積極的にコミュニケーションを行うために必要となる知識や技能を実践的に身につけることができます。

(三木 綾香)



国内実習

ひとくちに日本文化といっても、自分が育った環境だけが日本文化ではありません。教室を離れて実際に現地を訪ねることで、それぞれの地域に根差した多彩な生活・文化と人々の存在に触れることができます。

- 日本語研究フィールド実習
- 日本文化研究フィールド実習I/II

日本の都市部や地域社会を訪れ、文化やことば、現代の社会が抱える問題など、その地域の生活の在り方を多角的に捉えることをテーマとしています。過去に実習が行われた地域は、多摩川源流の山村（山梨県丹波山村）、沖縄の半農半漁集落（沖縄県糸満市）、「合併しない宣言」を掲げる町（福島県矢祭町）、瀬戸内の多島美のなかに位置する豊町（広島県大崎下島）や蒲刈町（広島県上蒲刈島）などです。夏季休暇を利用して、合宿形式で実習を行うので、先生と学生の距離も近くなり、毎晩遅くまで語りあうことも多いです。



海外実習

本学類では、実践性と国際性を重視し、海外で行う実習の科目「国際科目」を提供しています。日ごろ教室で学んだ知識を異言語・異文化を背景とする人たちとの交流の中で見つめなおすことにより、異文化理解、国際交流を身をもって体験することができます。

- スロベニア実習（日本語・日本文化国際研修I/II）

スロベニア共和国は、古くから欧州各地を結ぶ文化・流通の拠点となった地域です。その首都にあるリュブリャナ大学を訪問し、日本語を学ぶ大学生との学術交流会や、中欧地域の民俗や歴史、宗教史、教育事情などが学べる特別プログラムを受講します。



- 韓国実習（日本語・日本文化国際研修 III/IV）

「旧日本軍慰安婦」共同の家（ナムムの家）や、他の地方に在住する「元慰安婦」のハルモニ（おばあさん）たちと交流したり、韓国の大学生たちと討論しながら、「慰安婦問題」をはじめ、日本と韓国の国際関係、また韓国の現代史への理解を深めます。



日本語教育実習

本学類は、日本語・日本文化を総合的・相対的にとらえ、異文化を背景とする人々に適切に発信できる知識と能力を身に付けた人材を育成するという教育目標のもと、日本語教育に力を入れています。

- 国内教壇実習（「日本語教育実習」）

筑波大学内で留学生等を対象に、2ヶ月間にわたり教壇授業を行います。教案や教材の作成、授業の実施、授業の録画を見ながらの討論を通して、スキルアップを目指します。また、学期末には実習で行った授業活動に関する研究レポートを作成します。

- 国内企業研修（「日本語教育企業研修」）

東京・大阪のプレイングループ関連施設で、ベトナム・ミャンマーの学習者を対象に日本語教育研修を行い、指導実践とともに、教材の編集やプレゼンテーションなどの「日本語教師」以外の職業に関する知識を深めます。

- 海外教育実習（「日本語教育国際研修I/II/III-A・B」）

スロベニアのリュブリャナ大学、マレーシアのマレーシア工科大学で、現地の大学生等を対象に日本語教育実習を行います。



体験記

日本語研究フィールド実習【大橋 香奈】

上蒲刈島に一週間程度滞在し、日本語によるコミュニケーションや上蒲刈島の方言形式などを調査し、レポートを作成しました。私は上蒲刈島と豊島の調理の動作の語彙について調査しました。例えば今回の調査で得た、匂いを表す表現は「いい匂いがぼーんとする」でした。ほかにもソウメン瓜の身を外すときの言葉「はなれちやいちやい」など興味深い発見がたくさんできました。

現地で直接お話を伺い、自分が集めた生のデータでやりたい研究ができることは本当に貴重な体験になります。興味関心のあるテーマをなんでも決定するため自由度が高く、事前学習からレポートまで先生方が丁寧に指導していただき、学ぶところが多い価値ある実習であると実感しました。大変ではありますが、必ず今後のための力になります。



日本文化研究フィールド実習【渡辺 隆信】

私たちは、広島県呉市の上蒲刈島に1週間ほど滞在して調査を行いました。各々が研究テーマを設定して、事前学習をした後、現地調査を行います。私は上蒲刈島のお祭りについて調査をしました。実際にお祭りを運営する方々のお話を聞かせていただいたり、「權伝馬（お祭りで使う和船）」の実物を見せていただいたりしました。

この授業の魅力は、やはり直接データを収集できることだと思います。現地の方々の温かさに触れつつ調査をすることで、文化と人との繋がりを実感できます。帰ってきてからはレポート作成をします。自分の手で得た生のデータを分析し、レポートとして仕上げていきます。このように、自分で一から研究をすることができるのは、フィールド実習ならではの醍醐味だと思います。



体験記

スロベニア実習【中嶋 さくら】

海外で「日本を紹介する」。これは簡単そうに思えるかもしれませんが、実はとても難しいことです。自分にとっての日本とは、相手にとっての日本とはどのようなものでしょうか。この実習では、準備段階から「日本」について多角的に考える力をつけることができます。

スロベニアでは、プレゼンテーションやウェブページの編集などをリュブリャナ大学の学生と協同して行います。一筋縄では行かず、作業が進まないことも多いですが、その過程に異文化交流の難しさ、面白さが隠れているのです。また、スロベニアでの滞在は、毎日が異文化との接触にあふれています。

食生活一つをとっても日本とは全く異なります。「他者を知ることで、自分を知る」というように、現地では良い意味でのカルチャーショックが体験できるかもしれません。



韓国実習【神谷 みほの】

ソウルと大邱をメインフィールドとし、ハルモニや現地での活動家、さらには私たちと年代の高校生・大学生たちと交流し、問題の理解と解決に向け調査を進めます。

実習を通して、二国間の関係性や自国に対する考え方も変化し、自分の社会における立ち位置を考える良い機会となります。最初は難しいテーマに思えるかもしれませんが、問題についてはもちろん、東アジアの中での日本という国を考える点で重要な視点が多く得られます。今まで知っているつもり、学んだつもりだった「常識」が良い意味で崩され、外に目を向けるきっかけとなります。また、様々な立場の人たちとのコミュニケーションによって、異文化交流能力・問題解決能力が身につきます。「近いようで遠い」お隣の韓国との関係について、交流を通して考えを深めてみませんか。



体験記

国内教壇実習【森下 夢子】

指導教員やTA・TFの皆様の指導のもと、実習生が主体となり、教壇実習を行います。「チームで実習を行っていく」という印象が強い授業でした。

教壇実習では、5週間にわたり1日40分×3コマの授業を実習生が担当します。その日の授業間の連携について何度も集まって話し合い、授業後はビデオ分析やコメントを通じて、次の授業ではどんな改善が出来るかを考えました。実際の授業では、予想していなかった質問や、既習項目の内容に対して臨機応変に対応することが難しく、そして面白かったです。授業最終日のパーティでは、ゲームや会話などで教えた例文を自然と使っている学習者が多数見られ、嬉しい気持ちで一杯になりました。実習に対し不安もありましたが、皆様に助けられながら授業をやり遂げたことで、自信と、課題と、学習者と交流する貴重な機会を得ることが出来ました。



国内企業研修【永野 恭子】

長期休暇中につくばから東京の会社に通勤し、企業で働くベトナム人に日本語を教えました。学習者は、日本語を勉強しながら、日常生活でも日本語を使う人たちです。企業を訪問させていただいて、会社の雰囲気を感じながら、学習者の仕事と日常生活のための日本語力向上を目的とする授業内容を構成しました。

授業を行ったその日に、学習者や会社の方々から、時には働く人ならではの感想をいただき、次の日にはそのフィードバックを踏まえた授業を行えるように努力しました。「楽しく日本語が身につく方法は？」「どんな段階を踏めば理解しやすいだろう？」と考え続ける、充実した2週間でした。型にはまった教え方だけでなく、アイデアの詰まった新しい方法を試すこともできました。日本語教育の多様さと、「自分にしかできない日本語教育」を探すことのできる研修です。



留学生が日本で不便なく生活が送れるように、個人レベルで支援を行うのがチューター制度です。日本語・日本文化学類ではこのチューター制度の活用を力を入れており、多くの学類生がチューターとして留学生の支援に関わっています。

チューターの具体的な役割は、留学生の学習・研究の補助（予習・復習の手伝い）を中心に、日本語学習の支援、日常生活のサポート（学内外の案内、諸手続きのための市役所等への同行、買い物の補助）などを行うことです。また、歓迎パーティーや交流パーティーなども企画し、親睦を深めています。チューター制度は決して日本人学生から留学生への支援という一方向的なものではありません。日本人学生もチューターを経験することによって、日常的な交流の中から日本語・日本文化の伝達や異文化理解についていろいろなことを実感し、また学ぶことができるものと思います。



体験記

鈴木 海翔 & ジム・シアンリー

私はカンボジアからの日研生のチューターをしています。普段の主な仕事は、授業の履修を考えたり、銀行の振り込みのお手伝いをしたり、困ったことの相談を受けたり、レポートなど日本語の文章を直したり（でも直す必要がないくらい日本語は上手です）といった簡単なものです。とても仲が深まり、普段はお互いの国のことについて話したり、ご飯を食べに出かけたり、たまに恋の話もしたりしています（笑）。さらに私はカンボジア語を教わっています。また他のさまざまな国から来た日研生ともいろいろな話ができて、外からみた日本について考えることができました。世界が身近になったような気もしています。

チューターをすることで得られることはとても多く、大変貴重な経験だと思います。忙しいように思うかもしれませんが、体育会の部活に所属している自分でも無理なくできていますので問題ありません。皆さんもぜひチューターをしてみてください。

（鈴木 海翔）



大竹 春菜 & ソンポン・オラピム(オン)

私は入学前から留学生の友人をたくさん作りたと思っており、将来東南アジアで日本語教師として働きたい気持ちもあったため、必ずチューターをすると心に決めていました。

オンちゃんとはごはんを食べながら色々なことを話しました。オンちゃんは私が所属する伝統芸能サークルの公演に友達を連れてよく応援に来てくれたりして、おかげで世界中の留学生とも仲良くなりました。帰国後は私が二度タイへ行き、観光地に連れて行ってもらう時間を忘れて話したりと、楽しい思い出をたくさん作りました。

正直、チューターになる前は自分に務まるのか不安でしたが、市役所や銀行の方々の親切なサポートや先輩や友人の協力で、来日時の手続きなども問題なくできました。留学生は日本語がとても上手で日本をよく知っているので、すぐ仲良くなれると思います。みなさんも是非非チューター制度を生かして留学生の友人と楽しい学生生活を過ごしてください！

（大竹 春菜）



日本語・日本文化学類は、短期留学生・日研生・正規生（JE生含む）など、世界各地から数多くの留学生を受け入れています。日日の学生は、チューター制度や合同授業等を通じて留学生と触れ合う機会が非常に多く、毎日が国際交流です。

【日日の留学生数】(2013～2017年度)

	平成25年度 (2013)	平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)
短期留学生	31	30	36	27	21
日研生	14	14	14	6	12
正規生（JE生含む）	0	2	2	4	5

※当該年度に受け入れ、入学した人数

【留学生の主な出身国・地域】(1990～2018年)

アゼルバイジャン/イギリス/イタリア/イラン/インド/インドネシア/ウクライナ/ウズベキスタン/オーストラリア
オーストリア/オランダ/カザフスタン/韓国/カンボジア/キューバ/クロアチア/コロンビア/サウジアラビア
シンガポール/スイス/スウェーデン/スリランカ/スロバキア/スロベニア/タイ/台湾/タジキスタン/中国/チェコ
ドイツ/トルコ/ハンガリー/フィリピン/フィンランド/ブラジル/フランス/ブルガリア/米国/ベトナム/ペラルーシ
香港/ポーランド/マレーシア/ミャンマー/メキシコ/モンゴル/ラトビア/リトアニア/ルーマニア/ロシア

【日研生】

日本語・日本文化学類は、筑波大学の「日本語・日本文化研修留学生（日研生）」の受入機関となっています。日研生とは、日本国政府（文部科学省）の奨学金により、日本の大学において日本語能力および日本事情、日本文化の理解向上のための教育を受ける留学生です。自国の大学で日本語や日本文化に関する分野を専攻としている学生が対象です。



論文集『異文化との出会い』



日研生は1年間の留学の成果として修了論文を執筆することが求められます。指導教員や大学院生チューターからのアドバイスを受け、執筆に取り組みますが、その論文は毎年『異文化との出会い』としてまとめられ、出版されます。

最近の日研生修了論文

- 国語科戦前教科書における国語思想の分析
- 現代日本語の副詞「全然」について
- カタカナ語の使用実態と効果—ベトナム語との比較—
- ウズベク人と日本人とのビジネスコミュニケーションにおけるコンフリクトに関する一考察
- 日本の現代文化の特徴—義理のイメージを中心に—
- 行食にみる日本人の思考—千歳船の様相とその変化を通して—
- 少女マンガの女性語—『ガラスの仮面』の文末表現—
- タイと日本の国語教科書の比較
- 長崎出島における「オランダ通詞」と「オランダ語学」
- 日本語における役割語に関する一考察

【JE生】

「Japan-Expert（学士）プログラム日本語教師養成コース」の正規生として4年間在籍します。母国の日本語教育の振興に貢献する日本語教師の育成を目的とします。日本語教育インターンシップに参加し、現場での実践力を養います。

日本語や日本文化を客観的にながめる目を育て、世界に発信する力をつけるために、ぜひ在学中に一度は海外留学することをおすすめします。一年生のうちから海外留学の時期について考え、準備を進めていきましょう。世界はあなたを待っています！



交換留学制度

筑波大学は、68ヵ国・地域の大学や研究機関及び国際連合大学とCiC 7協定、大学間交流 144協定、部局間交流 213協定、合計 364協定を結んでいます。(2018.2.22 現在)
協定校への交換留学には、さまざまなメリットがあります。

1. 休学せず渡航できるので、計画的に単位を履修すれば4年間で卒業できる。
2. 留学先の取得単位は、一定の条件をクリアすれば卒業単位として互換可能。
3. 各種奨学金制度を利用しやすい。
4. 授業料相互不徴収に関する協定が締結されていれば、留学先の授業料免除。



協定校の一部

中国/北京大学、湖南大学、大連大学、澳門大学 台湾/国立政治大学 韓国/梨花女子大学校、韓国外国語大学校、啓明大学校 インド/ジャワハルラル・ネール大学 タイ/タマサート大学 ベトナム/ベトナム国家大学
マレーシア/マレーシア工科大学 オーストラリア/オーストラリア国立大学 カナダ/プリンス・エドワード島大
アメリカ/バデュール大学、オハイオ州立大学 メキシコ/メキシコ大学 ベルギー/カトリック大学 トルコ/ボアジチ大学
イタリア/カ・フォスカリ大学 エストニア/タリン大学 英国/シェフィールド大学 スロベニア/リュブリャナ大学
ドイツ/パイロイト大学 フランス/パリ13大学 ポーランド/ヤギェウォ大学 ラトビア/ラトビア大学
リトアニア/ヴィリニウス大学 ロシア/モスクワ市立教育大学、サンクト・ペテルブルグ大学 ウクライナ/キエフ国立大学
ウズベキスタン/タシケント国立東洋学大学 カザフスタン/カザフ国立大学、ユーラシア国立大学 エジプト/カイロ大学

詳しくは、<http://www.kokuren.tsukuba.ac.jp/GP/gplist.html> 「筑波大 国際交流」で検索!

体験記

武本 花奈【韓国：梨花女子大学】

高校の時から留学に興味があり、第二外国語で取った韓国語の授業で先生に勧められたことをきっかけに、韓国に留学しました。はじめは韓国語が自己紹介程度しか出来ず、戸惑うこともありましたが、授業で学び、韓国人と話をしていく中で語学力が伸び、ある程度の会話はスムーズにできるようになりました。

留学というと「語学」のイメージが強いと思いますが、私はその国で生活することによって得られる「気づき」が一番大切ではないかと思っています。韓国に行く前は、テレビや新聞などのメディアを通じてしか韓国を知ることが出来ず、日本人と言えば嫌な顔をする人に会うのではないかと少し心配していたのですが、そんな人には一人も会わず、むしろ韓国人は情にあつく、優しい人がとても多いことに気が付きました。メディアの情報や、自分が持っているイメージだけで判断することの恐ろしさ、そして自分で実際に会って、体験してみることの大切さを、この留学を通して改めて認識することが出来ました。

また、外からみる日本というものに気づき、感じられるのも留学の良いところだと思います。韓国は日本と似ている点が多い分、より違いを感じられたり、今まで日本に住んでいるだけでは気づけなかった部分を再認識することができます。日々だからこそ、一度海外という、日本ではない違う文化圏で暮らし、外から日本をしてみる経験をしてみてはどうでしょうか？



卒業論文は4年間の学生生活を締めくくる、大学における学業の総決算と言えます。若い感性でさまざまな吸収してきた滋養を基にして、ひろくアンテナを張りめぐらし「問題」を発見します。その課題の解決法をあれこれと試行錯誤しつつ導き出す過程を、分析的に説明することが求められます。漠然と分かっているつもりのことでも、思考を言語化して説明することは非常に苦しいことです。しかしこの苦しみを通してしか「唯一のもの」の創造は生まれないのです。この創造の実感はきっと皆さんの人生のなかでもっとも充実したものとなるにちがいません。

論文のスケジュール



卒業論文題目

最近の卒業論文題目(一部紹介)

- 観光産業による地域振興—北海道釧路市の事例—
- 埼玉県飯能市天覧山周辺エリアにおける観光事業の実態調査—エコツーリズムとアニメツーリズムを通して—
- 原因・理由を表すとされる接続助詞「から」「ので」の異なりについて
- 自治体窓口における住民対応の現状と課題—言語コミュニケーションの観点から—
- 俳句における「三越」の表象について
- 多言語・多文化社会における学校お便り文書のあり方—つくば市に在住する外国人保護者への調査を通じて—
- 近世における『伊勢物語』の受容—『仁勢物語』と『好色一代男』を例として—
- 自律学習支援と支援者の役割—大学院生の事例研究—
- 「グスコブドリの伝記」の成立背景から見る宮沢賢治の思考
- 動物昔話の構造分析
- 播州方言アクセントにおける二拍名詞4類・5類の統合
- 教科書の映像分析を通じた女性像—小学校6年理科を対象に—
- 女性を表す語を後部要素に持つ複合語の分析
- 斎藤隆夫の平和論とその現代的意義
- とりたてて詞「も」の不定用法に関する一考察

昭和63年度からの卒業論文一覧は、HP (<http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/>) で、「筑波日日」で検索!

日本語と日本文化を総合的に学び、異文化交流にも深い理解を持つ日本語・日本文化学類の学生には、社会のさまざまな分野での活躍が期待されています。その期待に応え、これまでの卒業生は、各々の希望や適性に最も適した道に進んでいます。

主な進路

平成30年までの卒業生の就職・進学先報告の一部

一般企業

ここ数年、卒業生の約半数が一般企業に就職しています。職種・業種ともに多岐に渡り、教育サービス業（教材出版販売、教育システムサービス、語学学校、等）、情報サービス業（情報通信システム開発、コンピュータソフトウェア開発、等）、流通・小売業（スーパー、コンビニ、等）や報道・出版業（新聞社、出版社、等）に就職しています。言語・文化両方にわたる視野の広さという、本学類の特質を仕事に活かすことが期待されています。

ベネッセコーポレーション／ホテルオークラ東京ベイ／日本放送協会／中央出版／学校図書／光村図書出版／いなげや／セブオン／足利銀行／メガネドラッグ／丸井グループ／NTTデータシステム技術／横浜信用金庫／JTB／トップツアー／佐渡汽船／日本郵政／エス・バイ・エル／ヤマハ発動機／関東鉄道／群馬銀行／早稲田アカデミー／富士通／丸紅／あおぞら銀行／第一三共／三井記念病院／エイチ・アイ・エス／日本武道館／マイナビ

教師

本学類では、中学校・高等学校の国語科の一種教員免許が取得できます。学類生の半数ほどが教員免許を取得し、5～6名が実際に教師になり、言語学的な面に強くしかも日本語教育の素養もあるユニークな国語科教員として活躍しています。

また、卒業後すぐに日本語教師として日本語教育に従事する者もいます。しかし、現在、大学や研究機関などの高等教育機関で日本語教師の職を得るためには、国内外を問わず修士以上の資格が求められるので、日本語教師を目指す人の多くは、学類卒業後、大学院を経て日本語教師として活躍しています。

福島県立中学校／富山県立高等学校／長野県立高等学校／茨城県立高等学校／学校法人東京聖徳学園／栃木県立中学校／埼玉県立高等学校／宮崎県立高等学校／静岡県中学校／星野女子高等学校／群馬県立中学校／明星学園高等学校

公務員

幅広い教養と広い視野を身につけて、公務員（県庁・市役所職員、裁判所職員、等）の道に進む卒業生も毎年数名います。

総務省／文部科学省／厚生労働省／茨城県庁／茨城県警察本部／東京都庁／福島県庁／愛媛県庁／佐賀県庁／広島県警本部／つくば市役所／成田市役所／沼津市役所／静岡市役所／豊橋市役所／仙台市青葉区役所

進学

学類での勉強の後、さらに専門分野の研究を続けたい場合、また、修士や博士の学位を得てより高次の専門職につきたい場合は、大学院に進学することになります。

大学院修了後の就職先は、国内大学教員では、筑波大学、東京大学、首都大学東京、群馬大学、広島大学など、海外大学教員では、中国の大連大学、韓国の興信大学、イタリアのカターニア大学など、世界中で広く活躍しています。

筑波大学 人文社会科学部

●文芸・言語専攻：
応用言語学領域、フランス語学領域

●歴史・人類学専攻：
日本史学領域、歴史地理学領域、日本民俗学領域

●国際日本研究専攻：日本語教育学学位プログラム

筑波大学 教育研究科
筑波大学 人間総合科学研究科
北海道大学／大阪大学／東京外国語大学／東北大学／早稲田大学

留学

大学卒業後、留学しながら日本語教師アシスタントをする人もいます。また、語学力を高めたり、さらに専門的な知識を深め、実践的な経験をつむために海外の大学・大学院に留学する人もいます。

国立研究開発法人

国際農林水産業研究センター

最新の情報は、<http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/toukei/index.htm> 「筑波大 就職」で検索!

先輩の声

野口 孝太【企業】

私は2014年度に卒業し、今は証券会社で働いております。まだまだ駆け出しではありますが、日々での経験を元に日々精進しております。

日々では入学当時想像していたよりも幅広い経験をすることができましたが、中でも今の仕事に活かされているのは、「世界から日本を視る」ということです。私は日本語の依頼表現を研究しましたが、その際、研究のヒントを与えてくれるのは英語など外国語との比較でした。また研修で海外を訪れた際には、生活や文化、そこから生まれる考え方の差異を肌で感じることができました。

世界ではグローバル化が進んでいると言われます。経済の連動性が高まるなかで、日本の状況を世界の中に位置付けて視ることはますます重要になっており、その経験を学生時代に出来たことが今に繋がっています。また私の職場にも沢山の外国人がいます。そういった中で躊躇うことなくコミュニケーションをとれるのも日々にいたお陰です。

これから日日来る皆さんも、「世界から日本を視る」ということにどんどんチャレンジしてみてください。

山本 貴世【国語教員】

「教員になりたい」「ことばって面白い」全国にひしめく800近い大学の中から、筑波大学の日本語・日本文化学類を選んだ動機は、たったこれだけの思いでした。

日本語の語彙や文法、方言やコミュニケーションと、「ことば」への漠然とした興味を抱いて国語の教員を志した私は、在学中、日本語分野と教育学の授業を中心に受講していました。学業優秀ではありませんでしたが、少人数のアットホームな雰囲気の中で議論をしたり、先生方の手厚い指導を受けながらも難解な論文に頭を抱えたりする毎日は、刺激的で楽しいものでした。

現在私は、県立高校で国語の教員をしています。大学で学んだ専門的知識は、言語文化に対する生徒の関心を引き出すのに格好の材料となることがあります。それだけではありません。新任教師として奮闘する日々の中で心の支えとなっているのは、個性豊かな仲間達と過ごした楽しい思い出です。情報収集からその分析の仕方まで、教員としての修養に欠かせない学びの手法は、演習の授業やゼミを通して身につけたものでした。日日で学んだ経験は、今も私の教員生活の礎となって生きています。

三戸 勝【日本語教員】

「三戸先生!」2年生の時に参加した海外実習で、私は初めて日本人を代表して教壇に立ちました。それまで漠然と「日本語教師になりたい」と考えていた私にとって、この体験はその目標に確信が持てた瞬間でした。その後、私はアメリカの大学院に進み、現在は講師として日本語のクラスを担当しています。

日日で数多く企画されている海外実習では、日本語教育とはどのようなものかを肌で感じることができます。日本への憧れを抱き、輝く目で私を見つめる学習者を前に、何とか効果的に教えたいと悪戦苦闘する日々。その中で私が気づいたのは、日本語を教えるというのは一方的なものではないということでした。たった数週間の実習の中で、私も彼らから言語や文化を学び、日本とその国の関係について共に考えるようになりました。このように日本語教育は、国際関係を深める第一歩としての役割も担っているのです。

日日はきっと自分自身の可能性を見つける入口となると思います。四年間様々な挑戦をして、その可能性を掴んで下さい! 世界のどこかで皆さんに会えるのを楽しみにしています。

安倍 千香子【公務員】

入学当初、「言語学」と「国語」の違いも知らなかった私が、気付けば言語学に惹かれ、「女らしい」と「おんなおんなしている」という表現の違いについて、友人と深夜まで夢中になって議論を交わすようになっていました。日日は、多様な国籍の友人とともに、多様な学問に触れることで、自身の潜在的な興味を引き出してくれる学類です。

私は現在、地方公務員として働いています。入庁当初は芸術文化の振興に携わっていた私が、現在では福祉の最前線といわれる生活保護のケースワーカーをする程に、公務員は業務の幅が広い職業です。在学時に得た知識を直接仕事に活かす機会はあまりありませんが、未知の世界を知ることの面白さを学んだ私には、予想もしない世界を教えてくれるこの職業が魅力的に感じられます。在学時に得た一番大切なものは、知識そのものというよりは、多様な考え方の共存を認める力や、ものごとを学際的に捉えて課題を解決していく力であり、それは、社会に出た私を日々導いてくれています。日日は、あなたの大切な4年間を、きっと有意義なものにしてくれるはずです。



学習編

Q どんな授業がありますか？

A 一般的に、先生方が授業の趣旨にそった内容について「講義」をする光景が思い浮かぶと思いますが、他にも「演習」や「実習」などがあります。「演習」とは、各自に時間が割り当てられ、学生が発表していく形式の授業です。ある事柄に対して自ら疑問を持ったテーマについて調べ、考察し、その成果を授業の中で発表するというものです。個人発表やグループ発表など形態は様々です。多くの文献にあたり、分析力を身につけられるので、研究することの楽しさを実感できるでしょう。「実習」とは、現地に出かけて調査を行ったり、実際に教壇に立って日本語を教えたりする、いわば実践型の授業です。海外の教育機関で研修をしたり異文化交流をしたりするものもあります。机上の学問だけでなく、実際に現場を見たり、経験したりすることで、新たな視点を切り開いていくことができます。

Q 外国語には何がありますか？

A 日本語・日本文化学類では、英語が1年生の必修科目です。2年生からは、より高度な内容を扱い、実践力をつけていく「専門英語」があり、一部の授業は基本的に全て英語で行われます。「初修外国語」も必修科目で、ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・朝鮮語から一つ選択し2年間学びます。さらに語学の実力を付けたい場合は、2年生以降、各言語の中級や上級を履修することもできます。

Q 大学図書館について教えてください。

A 筑波大学図書館は、蔵書数が全国有数で非常に充実しています。毎日、多くの学生が本や論文を探したり、勉強をしたりするために利用しています。電子リソースも充実しています。また、インターネットサービスも提供しているので、自宅からでもキーワードで図書や文献を簡単に検索したり、貸出予約ができたりします。また、他大学との相互貸借も可能です。

Q 海外日本語教育実習は誰でも参加できますか？

A はい。「日本語教育国際研修」の標準履修年次は2～4年生で、例年、ほぼ希望通りに参加することができます。とはいっても、いきなり日本語を教えることは難しいので、他の日本語教育に関する基礎的な授業でしっかり学んでから挑戦することが望ましいでしょう。応募多数になった場合は、それまでに履修した科目や成績が選考基準となります。

Q 他学類の授業は履修できますか？

A 日本語・日本文化学類の授業だけでなく、他どの学類でも自分の興味のある授業を自由に受講することができます。ただし、卒業単位(125単位)として認められる他学類の授業単位数には、上限があります。

Q 試験はどのように行われますか？

A 試験の形式は、授業によって先生によって様々です。普通のテストのような形式だけでなく、自分の考えを論理的にまとめる形式のものもあります。必ずしも明確な「正解」はなく、自分の考えを、筋道を立てて述べられるか、ということも問われているのです。また、試験を行わない場合、「レポート」が課されることがあります。授業と関連のあるテーマが設定され、それについて自分なりに調べて分析するものや、授業内容に関する自らの考えを述べるものなどです。

Q 教員免許を取得したい場合はどうしますか？

A 日本語・日本文化学類では、国語(中学校・高等学校教諭一種)の教員免許を取得することができます。教員免許を取得しようとした場合、卒業に必要な単位の他に、「教職に関する科目」として最低でも中学校免許で31単位、高等学校免許で27単位(を取得する必要があります。さらに、「教科に関する科目」を履修しなければなりません。これは日本語・日本文化学類の開設科目から履修すれば、卒業単位としても教職単位としても認められるので、それほど大きな負担とはなりません。実際、日日の半分ほどの学生が教員免許の取得を目指しており、国語教員免許取得率は、全学で日日が一位です。

生活編

Q 学生宿舎について教えてください。

A 新入生が優先的に入居できるよう配慮された施設です。毎年、1年生のほぼ全員が入居して新しい大学生活をスタートさせています。学生宿舎はいわゆる「寮」とは違い、管理は学生自身に任されています。そのため門限や規則などはなく、常識とモラルの範囲内で自由に生活することができます。入り口には認証システムがあり、セキュリティは万全です。なお、宿舎ではトイレ、炊事場、洗濯室はフロア共用になります。コインシャワーもあります。居住棟の近くには共用棟があり、食堂、浴場、コンビニ、理容等が配置されています。水道代、ガス代は不要で、電気代のみ支払いますが、格安です。2年次以降も入居したい場合は、希望者による抽選になります。

Q 留学生との交流について教えてください。

A 筑波大学にはグローバル・ヴィレッジという一般学生と留学生のシェアハウスタイプの学生宿舎があり、留学生と生活を共にすることができます。また、日日には多くの留学生が在学しており、チューター制度を利用したり留学生交流パーティーなどに参加したりすることで、授業以外でも多くの留学生と交流することができます。

Q 大学には、他にどのような施設がありますか？

A **書籍部**：書籍や文房具などを全て割引価格で購入することができます。**大学会館**：郵便局、コンビニ、旅行会社、画材店があります。**保健管理センター**：内科・整形外科・精神科・歯科の診療を、学生証を提示することで安く受けることができます。また、必要に応じて他の医療機関を紹介してもらうこともできます。そのほか、日日授業棟の中には、録音実験に使える防音室、教育実習で使うマジックミラーの部屋と観察室、学生控室や資料室もあります。また、日日学類関係の部屋として、話し合いに使える畳りの和室や、教室の一角に障子と床の間の茶室もあり、ここで茶道を学べる授業もあつたりします。

Q どんな食堂がありますか？

A 筑波大学には様々な食堂があり、定食やカレー、パスタ、そば・うどん、パン屋など、構内だけでも20近い食堂を利用することができます。いずれの食堂でも300～500円程度で食事ができますので、いろいろ巡ってみて、自分の好きな食堂を見つけてみるのもいいでしょう。夜遅くまで営業しているお店もあるので、夕飯やサークル前の腹ごしらえに利用している人もいます。

Q 学内でパソコンを利用することができますか？

A 筑波大学では、全学計算機システムのサテライト室(コンピュータ室)が、図書館や学群棟(講義棟)の各所に配置され、学生はそのどこでも同じようにパソコンやプリンタ、スキャナを利用することができます。また、学内無線LANシステム、学生宿舎LANシステム等の設備も充実しており、宿舎でも無料でインターネットを楽しむことができます。なお、メールアドレスが学生全員に与えられており、学外からチェックすることができます。

Q 学生の交通手段は何ですか？

A ほとんどの学生が自転車を利用します(このページの背景をよく見てください)。大学周辺には宿舎やアパートが多数あり、お店も多数点在するので、自転車があれば不自由のない生活が送れます。中には自動車やバイク等を利用する学生もいます。自動車所有率は、他大学より多いかもしれませんが、学内移動やつくば駅までは、大学循環バスを利用する人も多いです。つくば駅から秋葉原へは、つくばエクスプレスが最短45分と早いですが、大学から東京駅まで行く高速バスも出ています。

Q サークル活動には、どんなものがありますか？

A 筑波大学公認のサークル活動には、大きく分けて「体育会系」「文化系」「芸術系」の3つがあります。**体育会系サークル**：サッカーや野球、テニスといったメジャースポーツから、ヨット、ライフル、アーチェリーまで、様々なサークルが活動しています。**文化系サークル**：茶道、映画、将棋から、社会福祉系サークルまで、様々なサークルがあります。**芸術系サークル**：オーケストラ、アカペラ、合唱、津軽三味線といった音楽系のものや、舞踏、絵画、焼き物、写真といったものがあります。

入試案内

アクセス

【入試の詳細】

最新情報は、大学や学類のホームページをご覧ください。

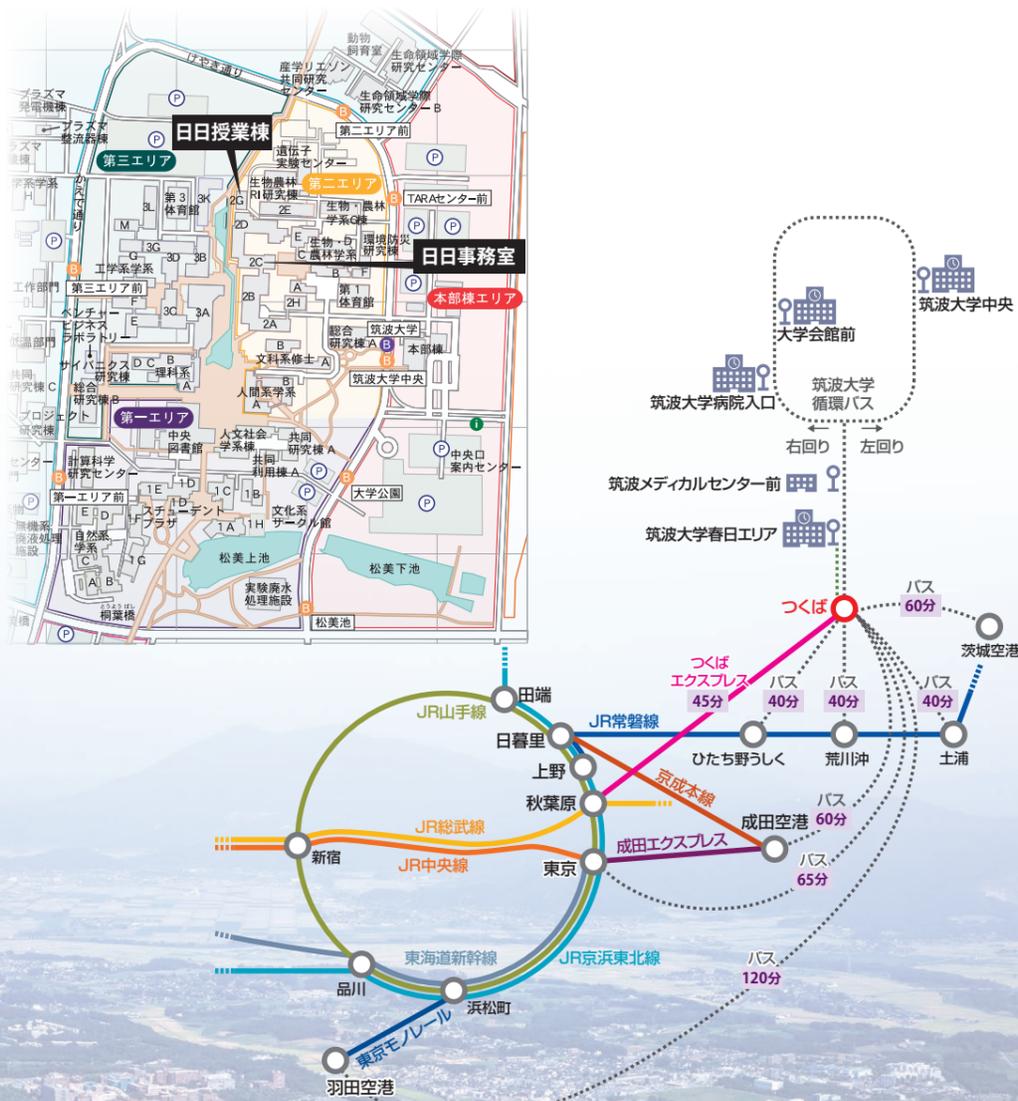
筑波大学ホームページ
<http://www.tsukuba.ac.jp/>

日本語・日本文化学類ホームページ
<http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/>

【受験生のための筑波大学説明会】

毎年7-8月に「オープンキャンパス」が筑波キャンパスで、3月末に「春の進学説明会」が東京キャンパスで行われます。

詳細は、日本語・日本文化学類のHPをご覧ください。



詳細は、http://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba_access.html 参照。「筑波大 アクセス」で検索!



伝えたい日本がある。



編集後記

この度は日本語・日本文化学類のパンフレットをお手に取っていただき、誠にありがとうございます。日本語・日本文化学類の魅力はみなさんに伝わったでしょうか。このパンフレットを通して、日日に少しでも興味を持っていただけたら幸いです。最後に、このパンフレットを作成するにあたってご協力いただいた先生方、寄稿してくださった卒業生、在学生をはじめとするすべての方に心より感謝いたします。

2018年度日本語・日本文化学類公式パンフレット制作委員会
 太田涼子(委員長)、池田由希菜、古澤京祐